

母子健康手帳で母親の妊娠中風疹抗体価を確認しよう

わたなべ小児科医院
渡部 礼二

抄 録

先天性風疹症候群（以下CRS）が2003年に10例報告された後、厚労省と産婦人科学会等から妊娠中低風疹抗体価だった妊婦は産後早期に風疹ワクチンを接種することが勧奨されている^{1) 2)}。しかし2013年から2014年の大流行で45名のCRSが報告され³⁾ マスコミが騒いでいた最中にも関わらず、母子健康手帳等からの当院のカルテの記録では29%の母親が妊娠中低風疹抗体価であり、その内の17%しか産院で1か月健診までに接種されていなかったが、接種勧奨でそれに加えて36%（低風疹抗体価の計53%）が接種できた。

産院での低風疹抗体価産褥婦のワクチン接種率が余りにも低いので、医師会会報投稿や個人的な産科への働きかけや県小児科医会から県産婦人科医会へ文面で接種勧奨を要望した所、低風疹抗体価産褥婦の内の1か月健診までの接種が35%へと増加、指摘後接種も46%（計81%）と増加した。更に2018年4月から金沢市は接種に対する助成が加わったこともあり指摘後接種が増え低風疹抗体価産褥婦の約90%にワクチンを接種できるようになった。しかし、1か月健診までの産院での低風疹抗体価産褥婦の接種は40%未満で、残りの50%は小児科での接種勧奨に委ねられているのが現状である。

低風疹抗体価産褥婦のワクチン接種は産科に任せっきりにしないうで、小児科でも母子健康手帳を見て母親の風疹抗体価をチェックし、低抗体価の母親には積極的に接種勧奨して行こう。

キーワード：先天性風疹症候群，風疹低抗体価産褥婦，風疹予防接種，乳幼児予防接種，母子健康手帳

緒 言

2004年の風疹流行で10名の先天性風疹症候群（CRS）発生を受けて厚労省研究班からの緊急提言¹⁾が出され、低風疹抗体価の産褥婦には産後早い内にワクチンの接種を勧めている。同様に日本産婦人科学会と日本産婦人科医会からも低風疹抗体価の産褥婦には産後早い内の接種を推奨レベルC²⁾ではあるが出されている。

風疹が大流行していた2013年の暮れ、私の診療所に乳児健診に訪れた母子健康手帳で母親の風疹の抗体価が低いのに産後風疹の予防接種がなされていない記載があるのに気付いた。しかし、その母親は風疹の抗体価が低いことも、次の妊娠の為にも予防接種をしなけ

ればならない事も知らなかった。そのような例が続いたので、その翌月の2014年1月から健診や予防接種に来院した児の母子健康手帳に記載してある妊娠中の母親の風疹抗体価と産後のワクチン接種状況を聞き出し児のカルテに記録した。また未接種の母親にはワクチンの接種を勧奨した。

妊娠中の低風疹抗体価の産後接種勧奨は小児科の会合や学会でのアナウンスと共に、個人的に2014年6月に金沢市医師会報⁴⁾への寄稿や石川県産婦人科医会へ接種勧奨依頼。組織として2016年6月に石川県小児科医会から石川県産婦人科医会へ会として要望書を提出して頂いた。行政の金沢市からは2018年4月より接種費用の助成を開始された。本論文はそれらの働きかけとその後の接種率の変動等を一小児科診療所での記

表 1 乳幼児予防注射・健診で判明した母親の妊娠中風疹抗体価

	症例	抗体あり	低抗体価	抗体価不明
前期	481	175	70	236
初期	199	113	48	38
中期	139	89	46	4
後期	106	67	39	0

録から検討した。

対 象

以下の4期に分けてカルテの記載を調べた。

前期：2012年1月～2014年6月生で2014年1月～6月に予防注射や健診で受診した児の母親481名：風疹の流行後の出生児で、受診時に抗体価の確認と接種勧奨をするようになった2013年1月以降の受診した児。

初期：2014年10月～2015年9月生の児の母親199名：石川県産婦人科医学会への申し入れ（産婦人科医学会通達2014年6月）及び金沢市医師会報⁴⁾に寄稿（2014年6月発行）後に出生の児。

中期：2016年10月～2017年9月生の児の母親139名：この頃より行政からの新生児訪問保健師が接種勧奨をして頂けるようになり、また石川県小児科医学会から石川県産婦人科医学会へ書面にて接種勧奨要望書提出（2016年6月）した後に出生の児。

後期：2018年4月～2019年3月生の児の母親106名：2018年4月1日の金沢市による低風疹抗体価の産褥婦へ接種助成開始後に出生した児。

なお双胎児の場合は1人として処理した。

方 法

筆者の診療所へ乳幼児予防接種や健診に受診した時、母子健康手帳に記載あるいは挟み込んである検査伝票から妊娠中に検査された風疹の抗体価を児のカルテに記載、不明な場合は次回受診まで産院に問い合わせて貰った。また児の出産後産院で風疹ワクチンあるいはMR混合ワクチンを接種しているかを聞き出した。一部の者には前子妊娠中の風疹抗体価や産後のワクチン接種を参考にした。

低抗体価の群：厚労省研究班の基準¹⁾通り $HI \leq \times 16$
抗体ありの群： $HI > \times 16$ 、および前子の $HI > \times 16$ あ

るいは風疹ワクチンを2回接種されたものも含む。

ワクチンの接種の有無は児の1歳健診までの接種としたが、後期は2019年6月末までの接種とした。ワクチン接種確認はその後受診した時までの確認であり、里帰りお産などによる転医で受診がなければ未接種のままとなった。

結 果

前・初・中・後期の時期別に抗体ありの群、低抗体価の群、抗体価不明を表1に、産院で1か月健診までに接種した群、低抗体価指摘後当院などで1か月健診後に接種した群、未接種あるいは接種未確認の群の数は表2に示した。また低抗体価群の産院接種群と接種勧奨後の接種群の累積接種率の経緯を図1に示した。

介入前の前期では産後時を経てからの児が多かった為か抗体価不明の割合が高かった。前・初・中・後期の時期も妊婦の3割前後が低風疹抗体価であった。

1か月健診までに産院での低風疹抗体価産褥婦へのワクチン接種率は、前期も初期も余り変わりなく17%前後であった。中期及び後期は倍の35%に増加した。

低風疹抗体価の母親への接種勧奨による1か月健診後のワクチン接種率は、前期で35%あり、初期から後期へと接種率は次第に増加し50%超になり、勧奨後接種が大きなウェイトを占めている。

考 案

風疹ワクチン接種の目的はCRS発症の予防にある。約50年間の試行錯誤の結果が現在の予防接種体制である。1回だけのワクチン接種かあるいはそれに麻疹・風疹混合ワクチンの3期や4期の救済が加わった時の女性が現在出産年齢にある。

2004年の厚労省の緊急提言後の2013年から2014年の風疹の大流行で45例のCRSが報告された³⁾。しかし多

表2 妊娠中低風疹抗体価の母親のワクチン接種状況

	1か月健診まで 産院での接種	1か月健診後の 接種	未接種
前期	12	25	33
初期	8	20	20
中期	16	21	9
後期	15	20	4

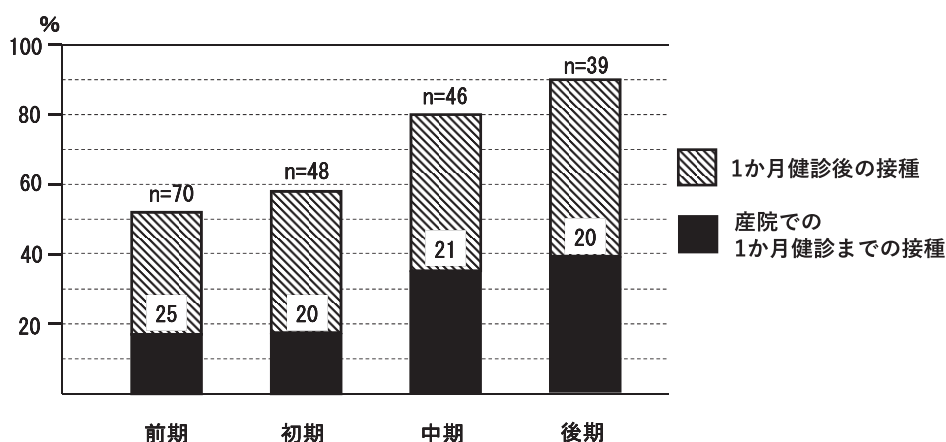


図1 妊娠中低風疹抗体価の母親の産後ワクチン接種率

数のCRS発症でマスコミが騒いでいた最中でも提言にある低抗体価の産褥婦には産後早期のワクチン接種がほとんどなされていなかったことが母子健康手帳をチェックすることで判った。

社会免疫としての社会全体への接種勧奨も大切ではあるが、低抗体価が判明し次子の妊娠の可能性の高い個々の母親への接種勧奨はより現実的であり、効率も高く説得もしやすい。

しかし産科サイドへの働きかけによる産後の接種勧奨には限界があった。これは日本産婦人科学会・日本産婦人科医会から発行されている「産婦人科診療ガイドライン・産科編」での低風疹抗体価産褥婦へのワクチン接種が推奨レベルC（考慮の対象にはなるが必ずしも実施が勧められているわけではない）の範疇に含まれているせいなのであろうか。

当院だけのデータではあるが、小児科サイドでも低抗体価の母親の半数近くが接種勧奨に応じてきている。ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンの予防接種や健診で乳児早期に小児科受診の機会が多くなり、母子健康手帳で母親の妊娠中の風疹抗体価を確認し、低抗体

価の母親へのワクチン接種勧奨と、更に再診毎に接種の確認と催促をすることができ、再三の接種勧奨も重要と思われる。

これらを通して市の新生児訪問保健師も母子健康手帳を見て接種勧奨をして頂けるようになり、金沢市でも2018年4月からワクチン接種に対して助成されるようになった。低風疹抗体価産褥婦はそのまま放置されれば17%の接種率だったと思われるが、産科への働きかけや母親への接種勧奨そして行政からの接種助成も重なり、私の診療所では低風疹抗体価産褥婦のほぼ90%に接種できるようになった。

今後1つでも多くの小児科で母子健康手帳をチェックすることで、1人でも先天性風疹症候群の発生を予防して行きたい。

なお、2014年に第24回日本外来小児科学会学術集会、第50回中部日本小児科学会、2016年に石川県小児科医会春季例会、第18回日本小児科学会石川地方会、2017年に第49回日本小児感染症学会、2018年に第29回日本小児科医会総会フォーラム、2019年に第122回日本小

児科学会学術集会で本題の途中経過を報告してきた。また、本研究には利益相反に関する開示事項はなく、金沢市医師会倫理審査委員会の認可も受けている。

著者役割

渡部は論文の構想・設計，データの収集・解析及び解釈を行った。

引用文献

- 1) 厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業分担研究班：風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言, <http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf> (2019年8月8日参照)
- 2) 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会：妊婦における風疹罹患の診断と対応は？, 産婦人科診療ガイドライン産科編2008, 日本産婦人科学会, 2008, 154-156
- 3) 国立感染症研究所：先天性風しん症候群(CRS)の報告(2019年6月19日現在) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/700-idsc/8588-rubella-crs.html> (2019年8月8日参照)
- 4) 渡部礼二：低風疹抗体価の妊産婦は分娩後早々に風疹の予防注射を！乳幼児健診時は母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！, 金沢市医師会だより, 2014, 498, 5